

# 奈良県北葛城郡上牧町議会

## 1 政策づくりと監視機能を十分に発揮している議会

議会は、有権者によって選ばれた議員で構成し、町民の代表機関として最良の意思決定を行うことにより、町民の福祉向上に果たすべき役割が一層求められている。地方分権の時代にふさわしい自治体としての責任と決定の範囲が一層拡大し、二元代表の一翼を担う議会は、町民の意思を代弁する合議制機関として、その役割と責務はこれまで以上に大きくなっている。このため、議会は、監視、調査、政策形成等の機能を十分発揮することが重要となってきた。

上牧町では、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に定める実質公債費比率が早期健全化基準を上回り、早期健全化団体となったことや、上牧町土地開発公社の経営破綻があり、地方自治法第252条の42第1項に規定する長からの要求に基づく個別外部監査が実施された。その個別外部監査結果報告書において「上牧町議会の監視機能が十分機能していなかった」と指摘を受けた。

これを受け、平成24年3月議会で「議会改革に取り組む決議」を全会一致で採択し、どうすれば議会の監視機能が高められるかを取り組んできた。その成果の一つが平成25年4月に制定された「上牧町議会基本条例」である。

議会及び議員の政策提言等による、よりよい政策の議論を展開するため、議会基本条例において、議員の政策立案及び提案能力の向上を図るための研修を実施することを規定している。毎年、議員全員による視察研修を実施し、議員の能力向上に努めている。

議会における活発な議論を推し進めるために、本会議及び委員会における発言は、一問一答方式とし、回数制限、時間制限を設けずに行っている。また、議員の質問及び質疑に対し、質問等の論点を分かりやすくするため町長等に反問権を与えている。

当議会では、総務建設常任委員会（6名）、文教厚生常任委員会（6名）の2常任委員会と、議会運営委員会（6名）を常設し、所管事務についての調査研究及び議会運営について議論を重ねている。また、町政運営における重要な課題に関しては、現在、財政問題特別委員会とごみ処理問題特別委員会の2つの特別委員会を設置し、集中した審議を行っている。

上牧町議会では、これまでの議会改革をさらに進め、より一層分かりやすく開かれた議会を目指すため、地方分権時代にふさわしい議会のあり方を明らかにし、より身近な議会となるよう努めている。

## 2 住民に開かれた議会

当議会では、平成24年の3月議会で「議会改革に取り組む決議」が全会一致で採択され、議会改革検討委員会を設置し議会改革に取り組んできました。平成25年4月に「上牧町議会基本条例」を制定し、「町民との情報の共有」と「協働と参画のまちづくり」を掲げ、町民にできるだけわかりやすく開かれた議会運営を行うことにより、町民の意見がより反映される議会を目指すことになった。

### ①議会報告会の実施

議会基本条例制定前の平成25年1月に第1回目を開催し、平成29年7月

の議会報告会で6回目となる。住民の皆さんが親しみやすい議会報告会となるよう、また少しでも多くの方が来られるよう、第4回目からは、議会報告会の名称を「みなさんと語り合う座談会」に変更した。平成29年度からは、会場アンケートの結果、年2回の開催が多く求められたことを受け、議会報告会を年2回開催することとなった。

#### ②インターネット中継の実施

議会改革の一つとして、議会の見える化を図るため、また町民への開かれた議会運営を行うために、平成26年12月定例会からインターネットの中継を始めた。本会議、委員会、全員協議会のすべての会議をタブレットやスマートフォンでも閲覧できるよう、生ライブでYouTubeから配信を行っている。傍聴者以外でも気軽に議会の様子が見えるような体制を整備した。

#### ③議会広報紙の充実

当議会では、広報委員会を7名の委員で構成し、議会事務局職員1名が出席し、8人体制で議会広報紙「議会だより」の編集発行にあたっている。

広報委員全員が近畿市町村広報紙セミナーに参加し、他市町村の優良事例を参考にするなど、積極的に編集スキルの向上に努めている。これまでの「議会だより」は字数も多く読みづらいという声もあったが、表紙のカラー化、見やすいレイアウト、写真やグラフを用いてわかりやすくするなど、紙面づくりの工夫をし、多くの住民に議会をより知っていただき、身近な存在に感じてもらえるように取り組んでいる。

定例会や臨時会での議決結果や議員の賛否、一般質問の内容、議会の活動や予定、行政視察研修の内容などを掲載している。

今後も時代の流れを常に意識し、「開かれた議会」、「町民の意見が反映される議会」を目指していきたいと考えている。

### 3 地域振興のために特別な取組みをした議会

まち・ひと・しごと創生事業や地方版総合戦略など、市町村は地域の実情に応じた計画を定め、その計画をより良いものとするためには、議会と執行部が車の両輪となって推進することが重要であると考えている。

上牧町においては、平成28年7月に北葛城郡4町（上牧町・王寺町・広陵町・河合町）による協議会「すむ・奈良・ほっかつ！推進協議会」を設立した。構成メンバーは町長及び議会議長の8名で、事務局、リージョンプロモーション、魅力体験イベント、住宅ファイリングという役割を分担し、各町が担当している。

北葛城郡4町は、昭和40年代から大阪都市圏のベッドタウンとして発展し、急激に人口が増加してきたが、現在は少子高齢化や都市圏への若年層の転出傾向が見られ、人口減少や地域の賑わい低下が危惧されている。また、大規模宅地開発された住宅街は、住民の高齢化や子ども世代の都市部への転出などの影響で、空き家が増加している。これまでも各町独自の移住に関する取り組みを行ってきたが、発信力の弱さ、知名度の低さから効果は薄かった。

そこで各町が抱える移住に関する課題の解決策として、4町の地域性や強みを結集し、商業施設、医療施設、教育文化施設、鉄道駅、高速道路インターチェンジなどの都市機能・緑豊かで美しい環境と通勤や子育てなど住むための環境機能が整った「ほっかつ」をPRすることで知名度の向上を図った。

また広域的な受け入れによるスケールメリットや地域の課題解決の加速化が期待できることから、広域地域ブランド「ほっかつ」として大阪都市圏からの移住促進をテーマにリージョンプロモーション事業を行っている。議会としても定住促進に向けた「空き家対策」をテーマとした行政視察研修を実施し、行政と議会が協力して、移住促進に関する取り組みをより効果的、かつ効率的に推進していきたいと考えている。

人口減少、出生率低下を抑制するためには、多様化するライフスタイルに合わせた支援を実施するとともに、地域と行政の協働による教育・子育て体制を整え、負担を減らし、安心して結婚・出産・子育てができる環境を整備することが重要である。

上牧町の25歳から39歳までの未婚率は、平成12年度は34.8%、平成27年度には53.3%と2人に1人が結婚していない。合計特殊出生率も1.09（平成24年度）とかなり低いものとなっている。行政として何かできないものかと、現代版おせっかいなおばちゃんを育てようと、上牧町では奈良県下初のマリッジサポーター（現在5名）を誕生させた。議会議員もサポーターとして活躍している。

この「かんまき未来創造マリッジサポーター」は、地域の「仲人」として行政の届かない地域の未婚男女をサポートする存在で、イベントでは場の雰囲気盛り上げたり、地域の人と人をつなぐ懸け橋となっている。事業の成果としてイベントを2回開催し、カップリングが1回目7組、2回目7組と成立した。しかし成婚に至っていないのが現状である。今後は5年間で8組の成婚を目指している。

議会としても結婚希望者が結婚できる支援体制を整備し、安心して子どもを産み育てることができるような取り組みを進めていきたいと考えている。